

ウキウキ
ワクワク

春のイベント大特集

浅虫水族館

水族館裏方見学会

6月の毎週土・日曜日 水族館の裏側を飼育員が解説(有料)

夜の水族館見学会

6月の毎週土曜日 18:00~20:00
普段見ることのできない夜の水族館の様子を公開

特別企画展「572億円!海からの恵み」

6月21日(日)まで開催中
漁獲量全国1~3位にランクされる青森県の代表的な水産物を紹介

☎017-752-3377

<http://www.asamushi-aqua.com/>

県立自然ふれあいセンター

花の旅~屏風山を訪ねて~

6月6日(土)
津軽国定公園・屏風山での観覧会 定員40名

日曜観覧会

6月21日(日) 講師と一緒に梵珠山の自然観覧

春の土曜観覧会~然ヶ岳~

6月27日(土)
鱒ヶ沢町の然ヶ岳、シノブ谷地を探索 定員40名

☎0172-62-4527

ホームページ「WeLoveBonjyu」
<http://www.jomon.ne.jp/~bonjyu/>

県立郷土館

企画展「花田陽悟展」

本県の風土を表現した美しい多色刷木版画の数々を展示
■会期:7月7日(火)~8月16日(日)
(会期中、休館日なし)

■観覧料:通常料金(一般310円、高校・大学生150円)

自然観察会

深浦町十二湖で、動植物や岩石を観察し、自然のしくみを学ぶ
■日時:6月28日(日) 10:00~14:00 ■募集人員:50名
■募集期間:6月1日(月)~20日(土) ■参加料:無料

☎017-777-1585

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html>

県立美術館

楽の音・日本の音

本県出身の演奏家(金管・木管・弦楽器、邦楽など)を中心としたアレコホールでの定期演奏会(いずれも19:00開演)
■6月13日(土) / 渋谷由美子(バイオリン)、浅野清(ピアノ)
■7月11日(土) / 西沢澄博(オーボエ)、大堀晴津子(ピアノ)

馬場のぼる展

「バクさん」や絵本「11ぴきのねこ」などでおなじみの漫画家馬場のぼる(三戸町出身)の初の回顧展
■会期:7月29日(水)~9月6日(日)

☎017-783-3000

<http://www.aomori-museum.jp/>

県立種差少年自然の家

たねさしワールド「夏」

海で思いっきり遊ぼう(いかだ、カヌー、サンドクラフト、磯遊びなど)

■日時:7月12日(日) 9:30~15:00

■対象:小・中学生と家族 100名

■参加料:一人200円程度

■募集期間:6月18日(木)~7月2日(木)
(定員になり次第終了)

☎0178-38-2131

種差少年自然の家ホームページ
<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-tanesashi/>

第2回 青森県民スポーツ・レクリエーション祭

■7月4日(土)・5日(日)

県内6市5町を会場に、ソフトバレーボール、マスターズ陸上、ユニバーサルホッケー等33種目を実施します。当日参加の種目もありますので、詳細は下記までお問い合わせ下さい。

県スポーツ健康課 ☎017-734-9909



青森のイメージが一変した撮影現場での出来事。僕は生まれも育ちも東京。映画を撮るまで、青森はおるか東北にも来たことがなかったんです。初めて訪れた青森の印象は、何よりも人があったかいいところ。

そして、思ったほどシャイじゃなかったということ。青森の人って、もっと引込み思案だと思っていたのですが、イメージとまったく違っていました。映画への参加意識の高さにはいつも驚かされます。「五重塔」を撮影した時には、地元的女性が出演させてほしいと願いできたり、クレーン車を無料で貸し出してくれる人が現れたり、映画を作ることを一緒に楽しんでくれました。もちろん豊かな自然も魅力の一面ではありますが、僕にとっては、青森の人間自体が何よりも魅力的でした。

青森のイメージが一変した撮影現場での出来事。

ネガティブな人間が、ポジティブな人間へ変わっていく過程を描きたい。そんな映画の構想を練っていた時、頭に浮かんだのは太宰治の作品「富嶽百景」でした。それが発端となり、僕と青森の関係が始まりました。「銀河鉄道の夜」「五重塔」での青森ロケしかり、最新作の「斜陽」しかり、青森との強い縁を感じています。

太宰治から始まった青森との深いつながり。



青森県の上映については、こちらのホームページで紹介しています。
<http://www.kaerucafe.co.jp/shayou/>

違う視点で見れば、青森は東京よりも裕福。

青森に来ると、いつも幸せの意味を考えてしまいます。お金という尺度で言えば、当然東京にはかなわない。けれど、食べ物などを考えれば、青森のほうが断然裕福です。また、地方都市が「ミニ東京化」しているのに対し、青森にはまだまだ地域の独自性が残っていると思います。これは青森ならではの個性。大事にしてほしいです。



映画「五重塔」の舞台は五所川原市。「津軽金山焼」でも撮影が行われました。

秋原正俊(映画監督)

東京都出身。文芸作品を現在に置き換える「新感覚ファンタジー映画」を創出。太宰治原作の「富嶽百景」、「斜陽」の2作品を映画化。また、小泉八雲原作の「伊藤の夢」、幸田露伴原作の「富嶽」宮沢賢治原作の「銀河鉄道の夜」を映画化し、その撮影は青森県内を中心に行われた。



太宰治原作の「斜陽」がまもなく公開。映画監督が撮影現場で見つけた青森県の魅力を語ってくれました!



読者プレゼント 10名様

太宰治生誕百年を記念して発売されたクッキー「津軽」小説「津軽」の初版本をイメージした印象的なパッケージ。林檎ファイバーが入ったクッキーをプレゼント!

応募方法

ハガキに、住所、氏名、年齢、今回の「県民だよりあおもり」の感想、興味を持った記事の明記の上、下記宛先にお送りください。なお、応募者が多い場合には抽選となります。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。ご了承ください。 030-8570 青森市長島1-1-1 青森県広報広聴課

申吾のほろとろラム

青森県知事 三村 申吾

ドクターヘリ運航開始

3月25日12時49分、大間からのヘリが戻ってきた。

ヘリから降りた医師が、てきぱきと指示を与え、患者さんが八戸市民病院内へと運ばれていく。

「先生、どうですか」

「大丈夫です。大丈夫、助かります」

医師が、自信を持って答えてくれた。

我らがドクターヘリは、こうして初日の運航開始式典に参加いただいた来賓の前で、始動のテープカットも待たずにその威力を発揮した。

私たちの青森県は広大な面積を抱える上に、医療資源が不足しているなど、地域の救急医療を取り巻く環境には厳しいものがある。特に、下

北半島や津軽半島そして西海岸といった、道路も整備途上で三次救急医療機関まで長時間の搬送を余儀なくされる地域にとっては、救急医療

にどう対応するかが、極めて重要な課題となっている。

県内のどこにあっても可能な限り生命を守りたい。少しでも救命率を上げたい―それは知事としての悲願である。

「だからこそ「ドクターヘリ」を運航したい!!」

この事が今般、多くの方々の熱意によって可能となった。

医師の「大丈夫、助かります」の一言に、人々の安堵する顔が目につく。

まだまだ課題もあるが、大切な生命を守るため、これからもみんなで知恵を出していこう!